



新役員紹介（事務局は入っていない）

第六十二回 定期總會

幸告編集部

発行所
二本松市木ノ根坂
あただら山の会
編集部

●連絡先
二本松市郭内1-5-5
0243(22)4245

新会長、□□□□さん

総会終了後、山岳懇談会が行われた。来賓の二本松市長・二本松警察署長（代理）・二本松体操課長・二本松体協会長の各氏から御挨拶を戴いた。会員三十一名、来賓三名が参加した。

常任顧問
長
理事、理事長
副全長
會計監查

二十九日 二本松駅前太陽
プラザ三階で開催された。
今年は九月に木曾御岳登
山など毎月一回の月例登
山・安達太良山登山道整備
が行われる。今月十九日
(日)の安達太良山開きに
は 二十九名の会員が三コ
ースに別れて パトロール
を行なった。今回は役員改
選も行われた。

五月十二日（日）

湯川渓谷登山道整備

報告編集部



十二日作業の結果、湯川渓谷登山道の「積雪期」は解除されたが、川沿いに残雪があり、雪解けで崖の崩

途中の屏風岩での休憩中に
は湯川対岸にカモシカが
現れたりした。

A photograph showing three individuals in outdoor gear, including hard hats and safety harnesses, standing in a wooded area. They appear to be researchers or surveyors, holding various pieces of equipment such as a clipboard and a device mounted on a tripod.

A photograph of two men in outdoor gear standing in a wooded area. The man on the left wears a red cap, a dark long-sleeved shirt, light-colored pants, and a black backpack. He is holding a large, light-colored rectangular object, possibly a map or a piece of equipment. The man on the right wears a light blue cap, a dark long-sleeved shirt, dark pants, and a red backpack. He is also wearing red gloves. They are standing on a path with fallen leaves and branches around them.

A photograph of two young boys standing outdoors on a rocky, uneven ground. The boy on the left is wearing a blue and red striped shirt, green pants, and a blue hard hat. He is holding a pink stick or object. The boy on the right is wearing a dark long-sleeved shirt, dark pants, and a white hard hat. They appear to be in a natural, possibly mining or quarry setting.

〔退会
会員〕

入会・退会・各員

一級の大展望の山塩沢黒森山、とっても素晴らしい感動の山だった。百聞は一見にしかずと言うが想像していた倍いや十倍、山頂に登ったとたんに眼前に迫り来る、広がっていた安達太良連峰和尚山から吾妻連峰、

蔵王連峰まで大迫力で下方には信夫山までも見える、苦労して飯豊山展望見にいった西会津鏡山そして高陽山また新潟二王子岳に勝るとも堂々としたものだった。是非とも登ってほしい山である、夏場は暑いので



黒森山山頂で 集会写真 萩野義雄さん提供

四月二十一日(日)

新緑の残雪期と紅葉の頃が
おすすめだ。遠くに行かずして
楽しめる地元にあつた
本当の第一級の展望の山、
登山家として一度は登らな

いと山を語れない塩沢黒森山。地元有志の方々の登山道の刈払い手入れなどの整備作業にお礼と感謝を申し上げます。



岩石



黒森山山頂から 安達太良連峰を望む

黒森山については、会記三六三号にも記載があります。登山道入口は、県道五四安達太良山線、鉄扇砂防公園の西側、「山の入がム」への曲り角を右折、様子のちよつと手前で左折して、墓地を左に見て、払川を渡って、更に道なりに西へ進む。二・四キロ程で舗装

め、九時十七分尾根剝着。ここから尾根に沿って南西に下る。やがて前方にサーキットが見えてくる。これから暫く道というか「跡み跡」が、サーキットに沿って出来ている。やがてちょっとした登り、この途中で、カンアオイ属の「トウゴクサインシング」を見付けた。道は尾根筋となり、右に沢



湯川渓谷登山道を見る



福島市との境界



トウゴクサイシン



登山口 午前9時

五月十九日(日)

第五十七回、安達太良山開き

報告

編集部



十九日(日)の第五十七回、安達太良山開き当日、四パティのパトロール隊を各登山道に出し、登山客の安全登山を見守った。当日は朝から曇り空、奥岳ではちよつと強めの風、ロープウェーも途中で止まりながらの運転だった。仙女平分岐あたりの登山道には、雪解水が流れ溢れている状態。登山客は靴を濡らさぬよう、慎重に足を運んでいた。小さな子どもは靴を濡らしてそかいでいたが、その上の雪田では大はしゃぎで雪の上で遊んでいた。山頂では午前十時から、ペナント配布、十一時からは安全祈願祭、その後、ミズ安達良コンテスト、四才の女児が準ミニズに選ばれると、歓声が上がり、カメラを持つ人が押し寄せた。

又二本松市松岡の千功成酒造は、昨年から販売している「鏡峯」という安達太良山縁の日本酒を持参し、登客に試飲を勧めていた。午後一時を過ぎると、山顶にいた登山客も大部分が下山、山頂で待機していたパトロール隊も午後一時半には下山を開始した。途中で足を痛めた登山者が居るとの情報、パトロール隊を向かわせたが、無事自力で下山したとの通報。今年の山開きも無事に終了した。

午後五時半から太陽グラザで、反省会、十七名の会員が参加した。



反省会、会長挨拶

会長玉串奉築

パトロールC班

二十四日(金)二本松市
都市計画課は、安達太良山湯川渓谷登山道に「サイン看板(丸札道標)」設置を行った。塩沢スキーリー場の山道入口が一番で、終点くろがね小屋が三十番、分数

形式の表示で自分の居場所が分かるようになつていい。毎年、十一月の降雪期前に取り外され、春先のこの時期に設置される。当日起光協会一名・あだたらの会三名が参加し、市役所に保管されていた看板を取付た。途中あだたら山の会は屏風岩向のクサリ場で支点のボルトの打ち直し、天狗岩上アルミ板橋の補強を実施した。登山道では、小さな「稚児百合」ピンクの東国三葉脚躅足下に「狸々躰」天狗の庭近くでは「東石楠花」塩沢スキーリー場には「山脚躰」が咲いていた。午後四時過ぎには、無事塩沢登山口に下山した。



アルミ橋板補強工事

ボルト、打ち直し

五月二十四日(金)

湯川渓谷登山道にサイン看板(丸札道標)設置作業

報告

編集部

観光協会一名・あだたらの会三名が参加し、市役所に保管されていた看板を取り付た。途中あだたら山の会は屏風岩向のクサリ場で支点のボルトの打ち直し、天狗岩上アルミ板橋の補強を行つた。また帰路には屏風岩から三階滝へ降り、登山道や途中のハシゴの確認も実施した。登山道では、小さな「稚児百合」ピンクの東国三葉脚躅足下に「狸々躰」天狗の庭近くでは「東石楠花」塩沢スキーリー場には「山脚躰」が咲いていた。午後四時過ぎには、無事塩沢登山口に下山した。

八時十五分 御池Pから出発、御池広沢辺りで五センチ上は十センチくらいの新雪でした、視界は不良で



第二十七回

報告



地藏岳



避難小屋

付き地蔵岳山頂では、五〇〇七（平成一九）二月一日で百名山を一日で登った。日本百名山を早く踏破するため、体調も良かったし天候にも恵まれ馬鹿な事を思い付いた。下調べは出来ていたので、体力を試してみたかった。

朝四時には小屋を出発、広い道は美ヶ原牧場のわき通り難なく王が頭（おうがしら）まで、体力を試してみたかった。

四月二十八日(日)快晴。福島から山形まで開通した山形中央道、再開通したエコーライン、そして平成最後の山行を蔵王を計画。二本松六時出発、栗子トンネル山形中央道「上山市」からエコーラインに入ると通行止めの電光掲示板が目にに入る。エコーラインを諦め蔵王温泉へ向かう。ケーブル乗り場下の駐車場で朝食。駐車場の車が急に多くなる。エコーラインから回って来た車だと思う。ケーブル・ゴンドラ山頂駅往復一千八百円。山頂駅九時三十分出発、お地蔵さんの台座は雪の中。地蔵岳のアイスモンスターは今後見る事が出来なくなると思う。木の葉が無く、全部枯れ木となってしまった。今回は昨日の寒波で枯れ木に霜氷が付き地蔵岳山頂では、五

に残る山行であつた。

十九位付き綺麗。風も穏やかで快適。地蔵岳九時四十五分、熊野岳稜線まで登山道の雪は九十五%位有り、今年初めての雪山で妻は要戦苦闘。稜線に出ると風も強くなり、熊野岳山頂をあきらめ避難小屋での昼食（十一時）。避難小屋にはストーブもあり温まることが出来るようだが、小屋は腐れ落ちている所もあり、危険である。

小屋十二時出発、稜線は相変わらず風が強い。少し下ると、風無く快適な下り。安達太良・吾妻・飯豊山・朝日連峰・月山・葉山・遠くに鳥海山まで眺望を楽しむ事が出来た。地蔵岳山頂駅十三時。蔵王温泉で風呂に入り、温泉十五時発、二本松十七時無事帰宅。平成最後の山行、思い出に残る山行であった。

きづらかった。視界もなく進むと、夢料山荘に着くとやっと登山者に追いついだ。ここからは道も険しくなり、足元に気を付けて歩いた。視界も開け、黒い溶岩があり山頂が見えて来た。頂上の標識に立ち記念の写真を取った。九時二十分だった。快晴に近かったが霞が掛り、視界は悪かった。

次に目指すのは蓼科山（二五三〇㍍）だ。途中に霧ヶ峰（車山）は前に登っている。ビーナスラインを進めた。山腹を縱断する道路で、山登りで何回か利用した。途中の白樺湖はリゾート地で別荘や宿泊施設があり、車や人々の姿もあった。カーナビで行ったが、道を間違い牧場まで下がりロス時間もあったが、引き返して事なきを得た。蓼科山七合目の登山口に車を置き、八時三十分には登りはじめた。始めは緩やかでシラビソなどの針葉樹林の原生林に覆われ、からざわなので石がゴロゴロとして歩きづらかった。視界もなく

だ。曲は分からぬが、疲れた体に沁み渡った。山で聞く笛の音、吹いている人も仙人になつた氣分で吹いているのか、気持ちよさそうだった。私も尺八でも吹いてみたくなつた。現実にしてみなくなつた。下山する人もなくなり、この山には私一人か?と思うと不思議に気持ちが落ち着いて来た。二時四十五分頂上に立つた。視界が良く見渡すと、すぐ近くに浅間山があり、北の方には北アルプスが見えたが、霞が掛り視界は悪かった。そんな時「がさがさ」と音がした。何か

の名があり、名前が気になり話を聞くと、群馬県側では吾妻山と書くそうです。四阿山には、菅平牧場から登ることにした。登山コースタイムも五時間とある。菅平牧場を十二時五十五分に牧場の脇を通って登りはじめた。下山して来る方に、「今からですか」と励ましにも似た挨拶になつた。流石に焦つていた。快晴で視界も良いが、頂上の事ばかり考えて景色はあまり記憶がない。足元の咲いた黄色の花はいたるところにあつたが、写真を取る気にもならなかつた。尾根に辿り着いた頃、笛の音が聞こえて来た。見ると小高い岩の上で吹いているようだ。曲は分からぬが、疲

とホテルに行くと、みすぼらしいカッコウをしていたので簡単に断られた。このホテルは皇太子が泊まつた事もあるくらいのホテルなので、私の様な汗臭い登山者は泊めてくれないので、私はコンビニで余分に買つて困つたことになつたが食料は車に寝ることにした。ここは高度も高く、夜は七度くらいまで気温が下がり寒いと聞き寝袋に入つた。飲料水は便所の手洗いの水をもらい早めに休んだ。

「ドキッ」とした。内心
「熊」と思った。それは登
山者だった。地元の方で、
花の写真を取っていてとの
事だった。記念写真をお願
いし、急ぎ下山した。牧場
には四時三十分には着いた。
た。無事下山し安心したの
か急に疲れが出た。